



## 2017年度の環境会計

国内矢崎グループにおける環境保全のための投資額は、前年度比3.3%減の2億9,360万円となりました。2017年度は主に、老朽化した空調機器の更新やLED照明への切替えを中心とした投資となりました。一方、費用については、生産増に伴い製品の回収・リサイクルなどの費用が増加しましたが、研究開発費などの減少により、前年度比33%減の33億1,860万円となりました。経済効果は、廃棄物の再資源化の推進により、3億250万円となりました。

生産量の増加に伴い、事業活動におけるエネルギー投入量および廃棄物量は増加しましたが、CO<sub>2</sub>排出量は前年度比10%減となり、環境保全活動による改善が見られました。一方、水資源投入量は昨年と比べて横ばいでした。

### ■ 環境会計導入の目的

ステークホルダーへの説明責任を果たす

### ■ 集計期間

2017年6月21日～2018年6月20日

### ■ 基本事項

#### 集計範囲

国内矢崎グループ（矢崎総業、矢崎部品、矢崎計器および矢崎エナジーシステム）。ただし、投入エネルギーと環境負荷は国内子会社を含む。

#### 参考

環境省環境会計ガイドライン2005

#### 算定基準

- 1 環境保全以外の目的のコストと複合的に発生している場合は、按分して計算しています。
- 2 投資額は減価償却資産の当期取得額です。また、環境会計上、環境設備に関する減価償却費を定額法により算出し、費用に含んでいます。

経済効果には測定可能な効果を計上し、推定に基づくみなし効果は含んでいません。

## 環境保全コストおよび経済効果

(百万円)

項目		投資額	費用	経済効果
事業エリア内		213.8	439.6	300.3
内訳	公害防止コスト	5.2	105.7	0.0
	地球環境保全コスト	203.7	37.5	13.3
	資源循環コスト	4.8	296.4	287.0
上下流コスト	製品の回収・リサイクルなど	2.2	861.2	2.2
管理活動コスト	EMSの整備運用、環境教育など	31.1	618.3	0.0
研究開発コスト	環境配慮型製品の開発	29.0	1,371.7	0.0
社会活動コスト	環境保全を行う団体に対する寄付など	0.0	1.3	0.0
環境損傷対応コスト	土壌・地下水汚染に関わる修復など	0.0	0.0	0.0
その他	建物・屋根等の修繕など	17.6	26.4	0.0
合計		293.6	3,318.6	302.5
(参考:2016年度の合計値)		(303.9)	(4,947.4)	(313.0)

## 投入エネルギーと環境負荷

項目	単位	2016年	2017年	前年度との比較 (2017年-2016年)	
Input	総エネルギー投入量	GJ	2,510,154	3,083,636	573,482
	水資源投入量	万m <sup>3</sup>	595.3	600.9	5.6
Output	CO <sub>2</sub> 排出量	万トン-CO <sub>2</sub>	17.6	16.0	▲1.6
	廃棄物量	千トン	4.0	4.3	0.3